

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○日頃の調べ学習などを行うことを通して、必要な情報を読み取ることができている。 ○情報を関連付けながら、自分の考えを書くことができている。 ●前学年までの漢字の定着が不十分 ●記述式の問題の正答率は高かったが、選択式の問題の正答率が低い。読み取った情報を選択することができていない。	・前学年までの漢字を確実に定着させるために、日々の書く活動の中で、前学年までの漢字を積極的に使うよう指導する。 ・自分の考えを書くことは比較的できているので、間違えた選択肢をなぜ選んだのか振り返り、誤答の原因を明確にする活動を行う。
算数	○資料の読み取りの問題はできている。 ●記述式の問題では自分の考えを書くことができている児童が多いが、説明が不十分である誤答が多い。 ●図形に関する基本的な知識の定着が不十分。	・定着が不十分な領域に関する復習問題を、定期的実施している計算会などで取り扱い、継続的に復習に取り組む。 ・数学的な概念や定義を身に付けさせる。 ・授業の中で、自分の考えを伝える場を意図的に設定する。自分の答えに対して根拠を持って書いたり話したりする活動を取り入れる。
理科	○資料の読み取りの問題は出来ている。 ●生命分野に関する問題の正答率が低い。 ●問いに対する答え方が間違っている。	・児童の疑問を大切にし、目的意識を持てるような単元構想をたてる。 ・実際に見て、触れる体験活動を大切にしよう。

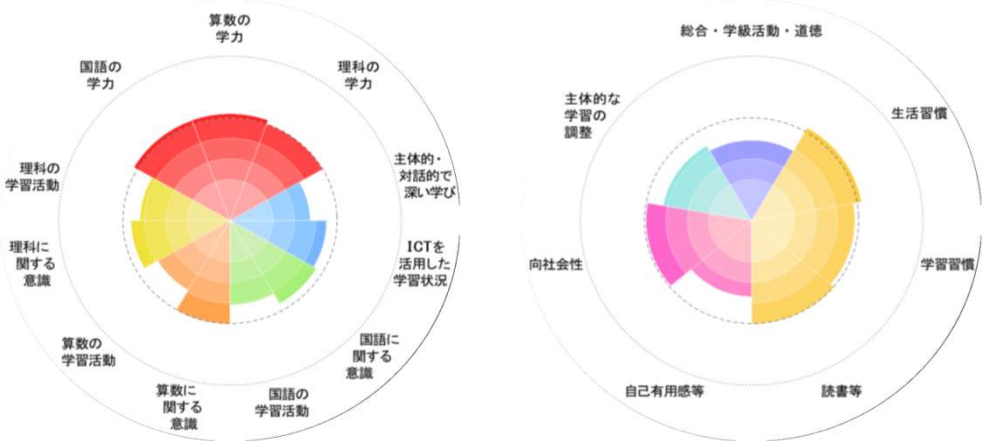
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○ICT機器を活用することについての項目で肯定的な回答が多い。 ○「人の役に立つ人間になりたい」の項目で肯定的な回答が多い。 ●家庭での学習時間と読書時間が少ない。	・家庭と連携し、自学などの評価を行う。 ・日々の学校生活で読書を行う時間を確保し、家庭での読書時間の充実を図る。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・自分の考えを分かりやすく、根拠を持って伝えることができるようになる。 ・児童が学習の目的意識を持って取り組めるようにする。
------	---

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

44

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

